

令和 5 年 3 月 31 日

萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 令和 4 年度 事業報告

会長 綿貫 篤志

「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」の令和 4 年度の活動は、長引くコロナ禍の影響により、制約を受けた中での取組を余儀なくされました。

しかしながら、地域包括ケアの推進にあたっては、ごく当たり前の日常であっても、感染症や自然災害が発生した場合であっても、圏域の住民に対しては、その局面に応じて、私たちの役割や機能を果たすことが使命であると考えます。

今年度は、協議会主催の多職種連携研修会第一弾・第二弾を通じて共有した圏域の実情や懸案事項等、さらには介護・障がい福祉サービス事業所への実態調査を通じて明らかとなった課題等に対して、できることを対応策として実践していくという姿勢で臨みました。

まずは、新型コロナウイルス感染症に関する基本情報共有の裾野を広げ、専門職間の情報格差を是正することを目的として「山口県新型コロナウイルス感染症対策本部」の公式 LINE への登録を呼びかけました。また、陽性者や濃厚接触者となった際、最新の正しい情報に基づき、避けるべき行動等を含めて、適切な初動対応ができるように、住民啓発用リーフレットを作成しました。さらに各事業所等で繰り返し利用していただける个人防护具の着脱に関する動画を制作して配信するなど、協議会ならではの取組を進めてきました。

新年度に向けても、試行錯誤している現状や懸案事項・課題等を関係者の皆様と共有し、今後に活かしながら、協議会活動を発展させていく所存です。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 (愛称:ケアネットはぎ)

～誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることのできる萩圏域を目指して～

萩市医師会と萩市、阿武町は 3 者合同で「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」を平成 30 年 12 月に設置。圏域の医療・介護・福祉・行政関係者等の参画を得て、地域を支える基盤となる「人と人とのつながり」を、専門職による多職種連携の面から実現できるよう活動を続けています。

I. 情報提供

- R04.04.20 「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイドブック 2022」の発行・追加配付申込
- R04.07.01 ガイドブック情報更新
- R04.07.08 山口県栄養士会「食形態マップづくり」研修会（R04.08.21）開催案内
- R04.09.07 介護予防市民講座「人生 100 年 生き支度」（R04.09.25）開催案内
- R04.09.29 多職種連携研修会第一弾（R04.10.19）開催案内
- R04.10.03 ガイドブック情報更新
- R04.10.12 多職種連携研修会第一弾（R04.10.19）開催案内（再送）
- R04.10.14 多職種連携研修会第一弾（R04.10.19）Zoom ミーティング URL 送付
- R04.10.21 多職種連携研修会第一弾（R04.10.19）資料送付とアンケート回答依頼
- R04.10.26 多職種連携研修会第一弾（R04.10.19）動画配信のお知らせ
- R04.10.31 多職種連携研修会第二弾（R04.11.16）開催案内
- R04.11.11 多職種連携研修会第二弾（R04.11.16）の概要と事前準備のお願い
- R04.11.16 多職種連携研修会第二弾（R04.11.16）参加に係る留意事項
- R04.11.28 多職種連携研修会第二弾（R04.11.16）動画配信のお知らせ
- R04.12.08 多職種連携研修会第一弾（R04.10.19）アンケート結果報告
- R04.12.12 介護・障がい福祉サービス事業所 実態調査のお願い
- R04.12.16 介護・障がい福祉サービス事業所 実態調査のお願い（再送）
- R04.12.28 介護・障がい福祉サービス事業所 実態調査一部報告と LINE 登録のお願い
- R05.01.04 ガイドブック情報更新
- R05.01.20 認知症疾患医療センター合同研修会（R05.02.12）開催案内
- R05.02.01 住民啓発用リーフレット（新型コロナウイルス感染症対策）活用のお願い
- R05.02.21 「動画で解説 個人防護具の正しい着脱」配信のお知らせ
- R05.02.21 多職種連携研修会第二弾（R04.11.16）アンケート結果報告
- R05.02.21 介護・障がい福祉サービス事業所 実態調査結果の報告
- R05.03.03 「動画で解説 個人防護具の正しい着脱」配信のお知らせ（再送）

【情報提供件数】

項 目	感染症対策	ガイドブック	研修・啓発	そ の 他
件 数	3	4	14	4
合 計	25			

Ⅱ. 会 議 関 係

- R04.05.20 **事務局会議** 内容は「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイドブック 2022」について、山口県栄養士会からの「嚥下食～食形態マップづくり」の後援依頼について、協議会の組織体制について、専門部会の懸案事項について、令和4年度の事業計画についてなど
- R04.07.14 **その他《令和4年度 第1回 萩地域感染対策連携カンファレンス》** 内容は感染対策向上加算・外来感染対策向上加算の算定に伴うもの
- R04.08.09 **事務局会議** 会長が出席。内容は、協議会の組織体制について、山口県栄養士会の「嚥下食～食形態マップづくり」の取組状況について、ガイドブック 2022の情報更新の状況についてなど
- R04.09.15 **事務局会議** 内容は、多職種連携研修会について、住民啓発について、クラスター支援チームについてなど
- R04.09.22 **事務局会議** 会長が出席。内容は、多職種連携研修会の企画内容の見直しについて。新型コロナウイルス感染症対策に関する萩圏域の現状と課題をテーマに研修会を2回に分け、第一弾で萩圏域の実情、多圏域との関係を含めた課題、検討すべき対応策等を、第二弾で圏域関係者による事例報告とディスカッションを予定
- R04.10.06 **その他《多職種連携研修会 打ち合わせ会議》**
- R04.10.13 **その他《令和4年度 第2回 萩地域感染対策連携カンファレンス》** 内容は感染対策向上加算・外来感染対策向上加算の算定に伴うもの
- R04.10.17 **事務局会議** 会長が出席。内容は、多職種連携研修会第二弾について、研修会第一弾以降の取組内容・日程についてなど
- R04.10.21 **事務局会議** 内容は、多職種連携研修会第二弾の会場レイアウトと収容人数の確認について、研修会第一弾の反省について、研修会第二弾の企画内容のブラッシュアップについてなど
- R04.10.25 **事務局会議** 会長・連携部会長・構築部会長と萩健康福祉センターが出席。内容は、多職種連携研修会第一弾の参加者数・アンケート結果等について、研修会第二弾の事例報告・グループワークの進め方についてなど
- R04.11.01 **その他《多職種連携研修会第二弾の会場確認》**
- R04.11.07 **その他《多職種連携研修会第二弾のグループワークのリハーサルと事前打ち合わせ》** 会長・構築部会長と萩健康福祉センター、当日のファシリテーター、協議会事務局が出席。アドバイザーがZoomで参加
- R04.11.10 **その他《多職種連携研修会第二弾の事前打ち合わせ》**
- R04.11.14 **その他《多職種連携研修会第二弾の会場設営の最終確認》**
- R04.12.01 **その他《多職種連携研修会第二弾の振り返り会議》** 会長・連携部会長・構築

- 部会長と萩健康福祉センター、当日のファシリテーター、協議会事務局が出席
- R04.12.05 **事務局会議** 内容は、多職種連携研修会第一弾・第二弾を受けて、専門職・住民への啓発（山口県公式 LINE 登録の周知など）、患者・利用者情報の共有の仕組み、介護・障がい福祉サービス利用制限の統一に向けて研修啓発、多職種連携研修会アンケート集計と周知方法についてなど
- R04.12.22 **事務局会議** 会長が出席。内容は、介護・障がい福祉サービス事業所実態調査の結果報告。今後の活動計画のうち、介護・障がい福祉サービス事業所への研修企画、住民への啓発、関係機関との情報共有・情報連携の仕組みづくりなど
- R05.01.12 **事務局会議** 内容は、住民啓発用リーフレットの作成、圏域内での情報連携の仕組みづくり、介護・障がい福祉サービス事業所への研修企画など
- R05.01.23 **事務局会議** 内容は、住民啓発用リーフレットの作成について
- R05.02.02 **事務局会議** 内容は、PPE（個人防護具）着脱訓練の動画制作に係る企画会議と動画撮影の内容や進め方について
- R05.02.07 **その他《PPE 着脱訓練動画の制作に係る企画会議と動画撮影》** 萩健康福祉センター、萩市民病院 ICN（感染管理認定看護師）が参画
- R05.02.15 **事務局会議** 会長と萩市民病院 ICN が出席。内容は、本日の動画撮影（オープニング・エンディング）について、研修動画配信の際の留意事項について、今後の活動についてなど
- R05.02.27 **事務局会議** 内容は、メール一斉送信方法について、住民啓発用リーフレット・動画配信等の活用実態調査について、情報連携ツールについて、次年度に向けての懸案事項についてなど

【会議開催回数】

項 目	3 者会議	事務局会議	そ の 他
開催回数	0	14	9
合 計	23		

Ⅲ. 研 修 会

多職種連携研修会第一弾の概要

■日 時 令和4年10月19日（水）19:00～20:40（受付開始18:30～）

■テ ー マ 多職種連携研修会第一弾

「新型コロナウイルス感染症対策 萩圏域の現状と課題
～第7波で何が起きたのか？第8波への備えは？～」

■講 師 報告「第7波から見てきたこと」

山口県萩健康福祉センター 健康増進課長 野村 洋子

講演「With コロナでも住み慣れた萩圏域で

自分らしく最期まで暮らし続けるために」

山口県立総合医療センターへき地医療支援センター長

山口県防府保健所長

山口県新型コロナウイルス感染症対策室主幹

山口県健康福祉部医療政策課主幹 原田 昌範

■参加方法 オンライン開催（Zoom ミーティング）

■参加者数 約140名（使用回線数は65回線、会場参加は事務局を含め17名）

■動画配信 10月26日（水）～12月31日（土）の間の視聴回数は204回。

多職種連携研修会の第1弾

新型コロナウイルス感染症対策
萩圏域の現状と課題 第一弾

～第7波で何が起きたのか？ 第8波への備えは？～

研修会の第一弾では、萩圏域のこれまでの実情や、他圏域との関係を含めた課題、検討すべき対応策等をお話いただき、後日開催する研修会第二弾で圏域関係者によるディスカッションを予定しています。

日時 令和4年10月19日（水）
開会／19:00（受付18:30） 閉会／20:40

開催方法 オンライン（Zoom） ※萩市地域医療連携支援センター、阿武町役場で視聴可能

参加方法 ◇ご希望の方は、10月12日（水）までに、Google フォームで登録、または参加申込書へ必要事項ご記入の上、メール・FAXでご提出ください。
（提出先） 研修・普及部会事務局（阿武町健康福祉課）
FAX: 08388-2-2090 E-Mail: minsei01@town.abu.lg.jp
◇お申込み後、WEB参加の方は、10月17日までに参加に必要なURL等をご指定のメールアドレスに返信します。メールが届かない場合はご連絡ください。

内容 報告 「第7波から見てきたこと」
山口県萩健康福祉センター 健康増進課長 野村 洋子 氏

講演 「With コロナでも住み慣れた萩圏域で自分らしく最期まで暮らし続けるために」
講師：原田 昌範 先生
山口県立総合医療センターへき地医療支援センター長
山口県防府保健所長
山口県新型コロナウイルス感染症対策室主幹
山口県健康福祉部医療政策課主幹

主催：萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会
問い合わせ先
・萩市医師会事務局 中村・神崎 会 0838-22-0224
・萩市医療介護連携推進室 岡本・中田 会 0838-25-3363
・阿武町健康福祉課 藤村・青藤 会 08388-2-3113

多職種連携研修会第二弾の概要

■日 時 令和4年11月16日（水）19:00～21:00（受付開始18:30～）

■テ マ 多職種連携研修会第二弾

「新型コロナウイルス感染症対策 萩圏域の現状と課題
～第8波に向けて、わたしたちの作戦会議！～」

■内 容 事例報告「各医療機関・事業所が直面したこと」

○萩慈生病院 院長 八木田 真光

○特別養護老人ホーム オアシスはぎ園 看護師 木村 清人

○障害者支援施設 しんわ苑 施設長 品川 泰章

○萩市国民健康保険 大島診療所 所長 村井 達哉

○萩広域介護支援専門員連絡協議会 会長 中山 京子

グループワーク「第7波で困ったこと／助け合ったらできそうなこと」

○モデレーター：萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 会長 綿貫 篤志

○アドバイザー：山口県萩健康福祉センター 所長 高橋 幸広

○アドバイザー：山口県新型コロナウイルス感染症対策室 主幹 原田 昌範

■参加方法 現地集合研修

■参加者数 95名（グループワーク参加者数は66名）

■動画配信 11月28日（水）～12月31日（土）の間の視聴回数は238回。



多職種連携研修会第二弾

新型コロナウイルス感染症対策
萩圏域の現状と課題
第二弾

～第8波に向けて、わたしたちの作戦会議！～

※本会の第一弾では、萩圏域のこれまでの実情や、各機関との関係を含めた課題、課題すべき対策等を共有しました。第二弾ではグループワーク等を通じて、課題（論点）で取り巻くことを実践・検討します。

日時 令和4年11月16日（水）
19:00～21:00（受付開始18:30）

開催会場 萩市総合福祉センター1階 多目的ホール

参加方法 現地集合研修（先着順で50名程度）
○グループワーク参加者を募集。締切は11月9日（水）。定員になり次第、終了。
○当日、動画を配信予定。参加者は撮影についてのご了解をお願いします。
○健康管理にご留意いただき、当日、体調不良の方は参加をお控えください。

内容

①事例報告：各医療機関・事業所が直面したこと
・萩慈生病院
・特別養護老人ホーム オアシスはぎ園
・障害者支援施設 しんわ苑
・萩市国民健康保険 大島診療所
・萩広域介護支援専門員連絡協議会

②グループワーク：第7波で困ったこと／助けあってできそうなこと
モデレーター（進行） 萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 会長 綿貫 篤志
アドバイザー（助言） 山口県萩健康福祉センター 所長 高橋 幸広
アドバイザー（助言） 山口県新型コロナウイルス感染症対策室 主幹 原田 昌範

主催：萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会
（問い合わせ先）
萩市医師会事務局 中村・神崎 ☎ 0838-22-0224
萩市医療介護連携推進室 岡本・中田 ☎ 0838-25-3363
阿武町健康福祉課 藤村・青藤 ☎ 08388-2-3113

《研修会第一弾・第二弾を通じての懸案事項・課題》

1. 新型コロナウイルス感染症対策に関し、圏域関係者による基本情報共有の裾野を広げ、専門職間の情報格差を是正できないか。

- ◇情報を取りに行かないで、実情が分からないといっている関係者がいるという声を聞く。
- ◇例えば「山口県新型コロナウイルス感染症対策本部」の公式 LINE など、利用登録すれば、スマートフォンで最新の情報が簡単に入手できる有用なサイトがある。関係者に利用を促してみてもどうか。
- ◇圏域の介護・障がい福祉事業所にアンケート調査を行い、実態を把握した上で、取組内容等を検討してみてもどうか。

2. 陽性者や濃厚接触者となった際、最新の情報に基づき適切な初動対応ができるようにならないか。

- ◇本人・家族が感染あるいは感染疑いの当事者となった際、うろたえないで、最新の情報に基づき、避けるべき行動等を含めて、適切に対処できないか。
- ◇自ら連絡を入れるという「本人同意」の行為を起点にして、例えば、陽性者からの連絡をもとに、ケアマネジャーが関係先とサービスを再調整するような取組にできないか。
- ◇圏域住民に向けては、遠方にいる家族やケアマネジャーなど関係者の協力を得ることを前提に、実効性のある啓発ツールを開発してはどうか。

3. 圏域関係者間で情報共有の仕組みを構築できないか。

- ◇施設内でクラスターが発生したために、施設サービスの提供に支障が出たり、利用者（患者）が陽性者や濃厚接触者になったために受けているサービスが制限されたりする。
- ◇クラスターが発生したことを公表する施設もあれば、公表しないところもある。
- ◇1 人の利用者が幾つかの通所・訪問サービスを利用しているために、通っている施設にクラスターが発生したり、本人が陽性になったりして、いずれにしても本人のサービス利用に影響が出る。
- ◇ケアマネジャーからは「感染が発生した場合、サービスの利用制限・停止等に直面する。利用者を守り、感染を広げないために、さらには本人が利用するサービスを再調整するために正確な情報の共有が欠かせない」との声があった。
- ◇これまで曖昧で不正確な情報が噂として広まり、サービス調整に困難を来したり、施設が風評被害に晒されたりするといった負の側面があった。
- ◇圏域内の介護サービス事業所同士で日頃から情報共有する仕組みがあるのかどうか、連絡系統がどなっているのか、その実態をアンケート等で確認してみてもどうか。

4. 圏域の状況に応じた事業所の自主規制のルールを標準化できないか。

- ◇研修会第二弾の事例報告において「事業所の自主規制のルールがまちまち」で、サービスの休止、再開といった調整が困難と指摘されていた。
- ◇国からは、これまで感染対策には十分に配慮した上で、介護サービスを継続するよう要請されており、都道府県や市町村もそれに足並みを揃えていたので、各サービス事業所が対応に苦慮されていたのは想像に難くない。
- ◇圏域内で自主規制のルールが標準化されていれば、感染が発生した場合でも、サービスの再調整を合理的、効率的に行うことができるのではないかと。
- ◇自主規制のルールを標準化する際、何をエビデンスにするかについては、例えば、山口県新型コロナウイルス感染症対策室に相談・調整し、萩圏域の状況に応じた自主規制のルールの目安を策定、それを協議会として推奨するという方法はどうか。
- ◇そもそも、圏域内の各事業所に自主規制のルールを標準化してほしいという意向があるのかどうか、アンケートで問い合わせてみてはどうか。

5. 独居の高齢者や認知症の高齢者が陽性となった場合の一時預かりができないか。

- ◇研修会では、独居の高齢者等を見守る宿泊療養や認知症高齢者が陽性になった場合の一時預かり所などの必要性が訴えられていた。
- ◇体温測定や酸素飽和度を測る程度の施設なのか、酸素投与や投薬までを行う臨時の医療機関なのか、法的な面を含めた課題がある。
- ◇マンパワー等が不足する中、宿泊療養であっても、臨時の医療機関であっても、施設と人材をどう確保するのか。

6. その他（急性期病院の介護力を強化、感染管理認定看護師を育成する取組、後方支援病院との連携強化）

- ◇新型コロナに対応している病院で、介護力が不足し、認知症など精神疾患を抱える陽性患者に対応できないのであれば、介護福祉士を採用するのも一考ではないか。全国的には、急性期病院に看護部だけでなく、介護部を設置するという先進的な取組もあると聞き及んでいる。
- ◇新型コロナだけでなく、新興感染症の流行を想定すると、圏域内で感染管理認定看護師（ICN）を育成していく取組が重要ではないか。
- ◇新型コロナに対応している病院の病床を有効に活用するために、急性期を脱した新型コロナ患者を引き受ける回復期、慢性期の後方支援病院と圏域内連携を強化すべきではないか。圏域外に搬送されたコロナ患者が、受け入れ先がないために圏域内に戻れないという指摘もある。

IV. 実 態 調 査

研修会第一弾・第二弾を通じての懸案事項・課題のうち、介護・障がい福祉サービス事業所に関することについては、令和4年12月12日（月）に「萩圏域 介護・障がい福祉事業所 アンケート」を該当する事業所にメールで送付し、12月19日（月）を期限として実態調査を行った。

12月21日（水）時点の回答率は、依頼した介護事業所43箇所のうち30事業所が回答し69.7%、障がい福祉事業所14箇所のうち10事業所が回答し71.4%、総数で57事業所のうち40事業所が回答し70.2%であった。

【A】 貴事業所では新型コロナウイルス感染症対策の情報を共有するため、職員に利用（閲覧）を推奨しているWEBサイトはありますか。

◇「有」が10件（25.0%）、「無」が30件（75.0%）
（利用を推奨している主なサイトは国・県・市やNHK）

【B】 推奨しているWEBサイトの貴事業所における職員の利用率は概ね何%くらいですか。

◇回答23件中、「0～20%」が17件（73.9%）、「20～40%」が2件（8.7%）、「40～60%」が2件（8.7%）、「60～80%」が2件（8.7%）。

【C】 回答者の方自身についてお聞きします。山口県新型コロナウイルス感染症対策本部の公式ラインを利用（友達追加登録）されていますか。

◇「利用している」が14件（35%）、「利用していない」が26件（65%）。

【D】 貴事業所の職員の方の状況についてお聞きします。山口県新型コロナウイルス感染症対策本部の公式ラインの利用率（友達追加登録）は概ね何%ですか。

◇回答39件中、「0～20%」が25件（64.1%）、「20～40%」が5件（12.8%）、「40～60%」が2件（5.1%）、「60～80%」が4件（10.3%）、「80～100%」が3件（7.7%）。

【E】 萩圏域の介護サービス事業所（または障がい福祉サービス事業所）同士で情報共有するための連絡系統はありますか。

◇回答 40 件中、「連絡系統がある」が 5 件 (12.5%)、「一部の事業所間で連絡系統がある」が 9 件 (22.5%)、「連絡系統がない」が 26 件 (65.0%)。

【F】「連絡系統がある」「一部の事業所間である」と答えられた方は具体的な連絡系統を教えてください。 例：電話連絡網、メール、ラインなど

◇電話 (5)、FAX (2)、メール (3)、LINE、LINE WORKS (ビジネスチャット)、Wow Talk (ビジネスチャット)、SMS (ショートメッセージサービス)。

【G】貴事業所ではサービス利用者がコロナ感染症陽性、または濃厚接触者等になった場合の利用制限や再開の基準を設けていますか。

◇回答 40 件中、「設けている」が 27 件 (67.5%)、「設けていない」が 13 件 (32.5%)。

【H】設けている場合、具体的な基準を教えてください。

◇回答の主なものは「保健所の基準にその都度、照らし合わせ」、「新型コロナウイルス感染症 診療の手引き 第 8.1 版を基準に」、「国の基準に沿って対応」、「保健所に連絡し、指示を受けながら対応」、定めた基準に沿って対応しながら「市役所・ケアマネ・他事業所に連絡」、「保健所、医療機関等による制限に準じて対応」、「ケースバイケース (独居、認知症、持病等) で対応方法が異なる」、「保健所、居宅介護支援事業所の指示に従う」、それ以外には、事業所ごと、陽性者・濃厚接触者ごとに具体的な日数を定めて、あるいは抗原検査の結果によって制限を解除している、など。

【I】萩圏域で利用制限や再開についての統一した基準を設けてほしいと思われませんか。

◇回答 40 件中、「設けてほしい」が 23 件 (57.5%)、「設ける必要はない」が 11 件 (27.5%)。「その他」が 6 件 (15.0%)。

◇「設けてほしい」の回答 23 件中、事業所の基準を「設けている」が 14 件 (60.9%)、「設けていない」が 9 件 (39.1%)。

◇「設ける必要はない」の回答 11 件中、事業所の基準を「設けている」が 7 件 (63.6%)、「設けていない」が 4 件 (36.4%)。

◇「その他」における自由意見では、「それぞれの事業所によって基準があるのは仕方がない」、「それぞれの事業所で問題に対する理解や意識・取組などが異なると難しい」、「利用者の個別事情により基準通りにいけることとそうでないことがあるため、指針程度として」、「それぞれの事業所の環境や感染した利用者の状態が異なる中で、基準だけを統一しても仕方がない」、「統一は難しいのではないか」、「保健所に定期的に基準を確認し

ている」。

【J】 貴事業所では BCP（業務継続計画）を策定していますか。

◇回答 40 件中、「策定済」が 7 件（17.5%）、「策定中」が 29 件（72.5%）、「未着手」が 4 件（10.0%）。

【K】 未着手の場合はその理由を教えてください。

◇「年度明けより、実行委員を設け着手していく予定」、「通常業務に追われ、なかなか手が回らないため」。

【L】 介護サービス事業所（または障がい福祉サービス事業所）を対象に个人防护具の着脱訓練等感染予防策研修の開催を計画していますが、参加したいと思われませんか。

◇回答 40 件中、「参加したい」が 29 件（72.5%）、「参加したいと思わない」が 11 件（27.5%）。

《介護・障がい福祉サービス事業所 実態調査結果に対する所感》

◇アンケートの設問【A】【B】の結果からも、事業所独自で感染症情報サイトの利用を推奨しているところは少なく、推奨されていても職員の利用状況は高くない模様。厳選された情報を最小限に絞り込んで、しかも PC ではなくスマートフォンで容易に入手でき、情報共有の裾野を広げやすいものが望ましいのではないかと。

◇設問【C】【D】の結果から、有用であっても「山口県新型コロナウイルス感染症対策本部」公式 LINE がまだまだ利用されていないことが分かる。まず、この情報を圏域関係者の殆どが共有しているという状況をつくるのが望ましいのではないかと。

◇設問【E】【F】の結果からも、サービス事業所間で積極的に連絡系統を整備しようという機運は見受けられない。一方で、研修会第二弾のグループワークなどでは情報共有の仕組みづくりを求める声は非常に多かった。

◇圏域の統一基準の設定については、設問【G】【H】【I】の結果からも、事業所独自で自主規制を設けているのが 7 割弱でありながら、圏域の基準をつくってほしいという声も半数を超えている。

◇設問【J】【K】の結果からも、コロナ禍で各事業所の負担がさらに増し、第8期介護保険事業計画の期間内（令和5年度末まで）を期限とする感染症や災害が発生したときにも対応できるBCPの策定に苦慮されていることが分かる。

◇感染対策の研修会の実施については、設問【L】の結果から7割が希望されているので、PPE着脱訓練等の研修を実施すべき。感染状況等に左右されないで実施できるよう、研修動画の配信を検討してみてはどうか。

V. 課題の抽出と対応策の検討

研修会第一弾・第二弾や介護・障がい福祉サービス事業所の実態調査結果から、コロナ禍において、圏域で対応すべき懸案事項・課題を以下のとおり抽出し、対応策を整理した。

《抽出した課題》

- ① 新型コロナウイルス感染症対策に関する専門職間の情報格差の是正
- ② 地域住民が利用できる新型コロナウイルス感染症対策の啓発ツールの作成
- ③ 繰り返し利用できる個人防護具（PPE）着脱訓練動画の制作と配信
- ④ サービスの利用制限や再開など自主規制ルールの標準化に向けた統一基準の設定
- ⑤ 関係機関との情報共有・情報連携の仕組みづくり

《実施した対応策》

① 新型コロナウイルス感染症対策に関する専門職間の情報格差の是正

メール送信日時：2022年12月28日(水) 15:39

関係各位

（BCC：ガイドブック2022掲載の介護・障がい福祉サービス事業所）

※法人内で通所、短期入所、訪問サービスがある場合は、お手数ですが関係部署への転送をお願いいたします。

いつもお世話になっております。平素は「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」の活動にご支援ご協力を賜り、誠に有り難うございます。

さて、先日はお忙しいところ、実態調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

皆様のご協力により、40事業所からご回答をいただきました。

添付のとおり一部を抜粋した内容となりますが、調査結果をご報告させていただきます。

また、今回の結果を受けて、当協議会としましては、感染症対策についての実態を把握するための情報共有ツールとして、山口県新型コロナウイルス感染症対策本部の公式 LINE を広くご活用いただけないかと考えました。

つきましては、啓発用チラシ（LINE 登録のお願い）を作成しましたので、貴事業所内の職員の皆様の目に留まる場所へ掲示していただき、感染症対策に関する情報を得る手段の一つとして、皆様にご活用いただきたく、ご高配を賜りますよう、切にお願い申し上げます。



② 地域住民が利用できる新型コロナウイルス感染症対策の啓発ツールの作成

メール送信日時: 2023年02月01日(水) 11:49

関係各位

(BCC: 協議会委員・各部会委員、ガイドブック2022掲載関係先等)

いつもお世話になっております。平素は「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」の活動にご支援ご協力を賜り、誠に有り難うございます。

さて、当協議会は、添付のとおり、住民啓発用リーフレット「ケアネットはぎから新型コロナ対策のお願い!!!」を萩健福など関係諸機関の協力を得て作成しました。

新型コロナウイルス感染症が疑われるときの受診や検査方法、陽性になったときの対応など、まずどうしたらよいのか、『初動』が分かるリーフレットになっております。

圏域関係者の皆様に内容をご確認いただき、皆様が担当されている患者や利用者の方々にお渡しするなど、広く周知、ご活用していただければ幸いです。

配布用のリーフレットはカラー印刷をして、十分な部数を協議会事務局にご用意しております。別紙「住民啓発用リーフレット 必要部数申込書」にてご連絡ください。

なお、このリーフレットは萩市公式ホームページ（下記 URL）からダウンロードすることができますのでご利用ください。

【HP タイトル】 啓発用リーフレット「新型コロナ対策のお願い！！」

<https://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/96/h52420.html>

お忙しいところお手数をおかけしますが、本リーフレットを皆様の感染症対策にお役立ていただきたく、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、ご不明な点等ございましたら、下記担当までお知らせください。

※医師会、歯科医師会、薬剤師会、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターについては、あらかじめ一定の部数を配布させていただきます。

さらに追加をご希望の場合には本申込書をご利用ください。

※住民の方々がご自身で検査をされる場合、『研究用』の抗原検査キットを使っていることが多いと仄聞しています。リーフレット配布の際には、『研究用』ではなく、国が承認した「体外診断用医薬品」または「第1類医薬品」の検査キットと表示されたものを使用されるよう今一度、お声かけをお願いいたします。

（萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 事務局）

萩市医師会事務局 中村・神崎 ☎ 0838-22-0224

萩市医療介護連携推進室 岡本・中田 ☎ 0838-25-3363

阿武町健康福祉課 藤村・斉藤 ☎ 08388-2-3113

③ 繰り返し利用できる个人防护具（PPE）着脱訓練動画の制作と配信

メール送信日時：2023 年 02 月 21 日(火) 12:57

関係各位

（BCC：協議会委員・各部会委員、ガイドブック 2022 掲載関係先等）

いつもお世話になっております。平素は「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」の活動にご支援ご協力を賜り、誠に有り難うございます。

さて、当協議会では、昨秋の研修会やアンケート等での皆様の声を受けて、个人防护具（PPE）の着脱に関する研修動画を以下のとおり作成いたしました。

配 信 日：令和 5 年 2 月 21 日（火）

配信内容：「動画で解説 个人防护具の正しい着脱」

関係資料：个人防护具の着脱に係るリーフレット

URL：<https://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/96/h52673.html>

新型コロナウイルス感染症対策の一環としてご活用いただきたく、ご高配を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

なお、配信ではなく、DVD の方が活用しやすい事業所等については、お知らせいただければ、対応いたします。

（萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 事務局）

萩市医師会事務局 中村・神崎 ☎ 0838-22-0224

萩市医療介護連携推進室 岡本・中田 ☎ 0838-25-3363

阿武町健康福祉課 藤村・斉藤 ☎ 08388-2-3113

令和 5 年 2 月 21 日

関 係 各 位

萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会

会長 綿貫 篤志

「動画で解説 個人防護具の正しい着脱」配信のお知らせについて

拝啓 向春の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」の活動にご支援ご協力を賜り、誠に有り難うございます。

さて、昨秋に開催した研修会や介護・障がい福祉サービス事業所への実態調査でご要望の多かった個人防護具の着脱訓練等につきましては、現地参集型で開催する研修の有用性もさることながら、繰り返し視聴していただけるという点に着目して、下記のとおり動画を配信することにいたしました。

この動画は、関係諸機関の多大なるご協力を得て制作したものです。介護・障がい福祉関係者の皆様はもちろんのこと、医療関係者の皆様にも是非、研修等でご活用いただきたくお知らせいたします。

また、研修会等の結果をもとに、新型コロナウイルス感染症対策の情報格差を少しでも解消するために「山口県新型コロナウイルス感染症対策本部 公式 LINE」への登録を推奨するチラシをお送りしたり、圏域関係者のお力添えにより住民啓発用リーフレット「ケアネットはぎから新型コロナ対策のお願い!!」を圏域住民の皆様に活用していただけるように工夫したりと、今回の配信を含め、取り組みを進めてきました。

懸案となっている課題は山積していますが、新型コロナウイルス感染症対策に係る「圏域の統一基準（目安）の設定」につきましては当面、感染状況の推移を注視し、必要な場合には皆様にご相談させていただきたいと存じます。

また、「関係機関との情報共有・連携の仕組みづくり」につきましては合理的、効果的で、費用面、法制面での課題をクリアする取組ができないか、引き続き検討させていただきたいと考えております。

研修会第二弾のアンケート結果、介護・障がい福祉サービス事業所 実態調査結果につきましては、別途、ご協力いただいた皆様にお届けいたします。

今後とも本協議会の活動にご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご不明な点等がございましたら、ご連絡いただければ幸いです。

敬具

【萩市公式ホームページに掲載】

動画で解説 個人防護具の正しい着脱

感染症対策として介護・障がい福祉施設等でご活用いただける研修動画を制作しました。日頃からの備えとして職員研修等で繰り返しご活用いただき、悩むことなく個人防護具を着脱できるよう、正しい取り扱いを習慣化することが目的です。医療機関でも是非、ご活用ください。

なおこの動画は令和5年2月21日時点で制作しています。感染状況に併せて最新の情報をご確認ください。



※動画の視聴は下記のリンクからご覧ください。

[◆動画で解説 個人防護具の正しい着脱](#)

【ゾーン別リーフレット】個人防護具の着脱手順

着脱する場所に掲示される等、着脱時に活用ください。

グリーン [PDFファイル/1.14MB]

イエロー [PDFファイル/809KB]

レッド [PDFファイル/2.05MB]



《持ち越す課題》

④ サービスの利用制限や再開など自主規制ルールの特標準化に向けた統一基準の設定

⑤ 関係機関との情報共有・情報連携の仕組みづくり

懸案となっている課題のうち、④については、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日（月）に5類に移行する予定であり、当面、感染状況の推移を注視し、必要に応じて皆様にご相談させていただきたいと存じます。

⑤については合理的、効果的で、費用面、法制面での課題をクリアーする取組ができないか、引き続き検討させていただきたいと考えております。

実施した対応策の効果測定、評価などを含めて、次年度に引き継ぐ取組にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。